

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
問一	ア	いつえいひ	いつえいのひ もよい。	各 1 × 5
	イ	さんぼうしひ	さんぼうしのひ もよい。	
	ウ	ていちょうゆうぞうぞうき		
	エ	しんびつ		
	オ	こよりぎれ		
問二	ア	平安・鎌倉時代に書写された名筆のこと。名筆の中でも特に仮名をさすことが多い。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 5
	イ	日本語を表記するのに表音文字として使った漢字のこと。「万葉集」や「古事記」に多く使われた。		
	ウ	文字の点画が切れることなく、筆意が連続された流れをいう。		
	エ	主として殷・周代の遺址で出土する亀甲や獣骨に刻された文字。		
	オ	点画を三段階に分けて書くこと。起筆・送筆・収筆のこと。		
問三	ア	① 剛 柔 以 合 体	やまさくら もよい。	各 3 × 3
	イ	② やまさくら		
		③ おとづれもせぬ		
	ウ	④ 宇 女 能 者 那		各 3 × 2
		⑤ 不 由 奈 礼 止		
問四	懐紙の8分の1		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
問五	根元を固めた糊を洗い落とさないように気をつけ、水を含ませた紙で丁寧に墨をふきとる。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
問六	①	筆が紙に触れたところからしだいに力を加え、その後スーッと力を抜いていく。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
	②	逆筆で筆を入れ、筆のばねを使って右側へ返し、引き抜いていく。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
問七	文字の大きさ	仮名は漢字よりも小さく書く。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 4 × 3
	配列	行の中心をそろえる。		
	配置	用紙に合った文字の大きさを考える。		
問八	次の点に留意していること。 ○文字の種類を統一していること。 ○文字を右から左に配置していること。 ○大きさや配置を考え、バランスよく構成していること。			各 3 × 3

70

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一	書跡名	九成宮醴泉銘	筆者名	欧陽詢	各 3 × 2
	問二	唐の皇帝、太宗が避暑に赴いた時、離宮内の一隅から偶然に清水が湧き出た。太宗は、これを唐王朝繁栄の吉兆と考え、記念碑の建立を命じて、この碑が建てられた。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5	20
	問三	字形は、①は背勢であり、②は向勢である。点画は、①は起筆・収筆を切れ味鋭くし、②は、起筆で筆を軽く置き、しだいに太く曲線的に書く。運筆は、①は直線的に速めに行い、②は柔らかく伸びやかに行く。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	9	
三	問一	祭姪文稿		祭姪稿 もよい。	各 3 × 2	20
		祭伯文稿		祭伯稿 もよい。		
	問二	顔真卿が、百官集会の席次を権力によって乱した郭英乂への抗議。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4	
	問三	ア	選んだ文字群	人臣之極地今僕射挺不朽之功業	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 選んだ文字群と構成の特徴が対応しているものだけを正答とする。	
イ		構成の特徴	文字の大小の変化や字間の変化があり、一文だけでバランスがとれているのではなく、前後左右の文字との関係でバランスをとっている。また、常に次々とリズムカルに書き、筆脈の貫通力を出すのにふさわしい部分である。			
四	問一	蓬萊切			3	26
	問二	大空に群れ飛ぶ鶴の姿は、さながら長寿を祝う心があるかのようにですね。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5	
	問三	料紙の上部と下部をそれぞれ雲型に藍色や紫色に染めたもの。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3	
	問四	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行の長短、高低や行間の広狭などの構成を工夫する。 ・ 平仮名と変体仮名を入れ替えてみる。 ・ 連綿を工夫する。 		3つ書かれていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 5 × 3	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 【例】	採 点 上 の 注 意	配 点		
五	問一	書を学ぶには必ず一碑数十字を集中的に学ぶべきである。このようにして一年数ヶ月、千数百回、臨書する。そこで初めて別の碑に変えるのである。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	20	
	問二	問題に誤りがあったため、掲載いたしません。 なお、すべての受験者に対し、正答として扱うこととします。		10		
六	問一	「漢字仮名交じりの書」では、「漢字の書」、「仮名の書」と違って、臨書を通して表現力を養うための評価の定まった古典が少ない中で、漢字仮名交じり文で表現された絵巻詞や書写本などの肉筆等を参考にし、学習の幅を広げることが大切である。 さらに、漢字や仮名の古典の鑑賞に基づき表現を工夫することもできる。それぞれの古典の鑑賞を通して名筆の性情、構成、用筆・運筆、線質 などの特徴を生かし、それを「漢字仮名交じりの書」の表現に生かす。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	10		
	問二	「漢字の書」、「仮名の書」では、学習する古典の範囲や種類を広げ、その臨書活動を通して、古典のもつ美を感受し、それを追体験することで表現の幅を広げることが大切である。个性的に表現するためには、漢字において仮名においても、用筆や運筆及び書風の多様性について学習し、意図する線質や表現の幅を広げていくことが重要である。 漢字においては、楷書、行書、草書、隷書及び篆書のそれぞれの特徴や伝統的な用筆や運筆を、代表的な古典から学び、点画や線質の技法に習熟する。また、仮名においては、様々な書風の古筆の臨書を通して、表現の多様性を学習しながら、その用筆や運筆を学ぶ。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	10		
七	書への 関心・ 意欲 態度	模範解答	選んだ語 朱雀色は赤、県大会一位を目指した部活動での私の意欲的取組に燃える想いを不死鳥に託して表現したいと思ったから。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	3	
		設問	参考とする古典と制作意図を書きましょう。			
	書表現 の構想 と工夫	模範解答	参考とする古典は張遷碑。制作意図は書道Ⅱで学習した張遷碑の重厚ながらも波磔の強さに魅力を感じている。どっしりとした中にも躍動感溢れる様子を波磔で表現したい。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 設問と模範解答が対応しているものだけを正答とする。	各 7 × 3	24
		設問	表現効果の工夫を書きましょう。			
		模範解答	墨は濃、油煙墨を使用し、油ぎった迫力を出す。筆は兼剛筆でも硬めのものを使用して、スピード感のある線で払いや波磔を書く。紙はザラザラした面を利用してかすれを出して荒々しさと強さを表現したい。			
		設問	紙の形や文字の大きさを変えて構成を工夫する点を書きましょう。			
模範解答	半紙を横長に使用して、扁額風に書く。飛び去りゆく不死鳥の姿と隷書の文字造型がマッチングした表現ができる。また、半紙を縦向きに使用し縦文字で書くと朱の文字を少し縦長にして昇りゆく炎の雰囲気表現できる。その炎を支えるように雀の文字は大きく横の広がりを持たせて強さと流動性を含んだ作品に仕上げたい。					